

## コロンビア政治情勢（4月分）

### 1 概要

#### 【内政】

- 6日 先住民によるストライキが政府と合意
- 8日 国会下院における和平特別司法制度基本法案の修正審議
- 11日 E L Nによる一方的一時停戦
- 23日 N G O団体「Somos Defensores」による報告書
- 29日 元F A R C兵に対する殺害

#### 【外交】

- 2日 ロシア連邦院（上院）の声明に対するコロンビア外務省声明
- 4～5日 トウルヒージョ外相の米国訪問（於：ワシントン）
- 5日 I C Cにおける社会活動家殺害に関する議論
- 9日 O A Sがグアイド暫定政権の合法性を承認
- 10日 トウルヒージョ外相の米国訪問（於：ニューヨーク）
- 11日 O A Sとコロンビア政府による第49回O A S総会開催に関する合意
- 14日 ドウケ大統領とトウルヒージョ外相がベネズエラ国境沿いに位置する県知事らとの会合を実施
- 14日 ポンペオ米務長官のコロンビア訪問
- 25日 ステイン国連ベネズエラ避難民対策共同特別代表の当地訪問
- 30日 リマ・グループ緊急会合の開催
- 30日 マース・ドイツ外相の当地訪問

### 2 本文

#### 【内政】

##### 1 先住民によるストライキが政府と合意

3月12日より先住民互助団体「ミンガ」がバジェ・デル・カウカ県、カウカ県及びナリーニョ県を横断するパンアメリカン道路を封鎖するストライキを行っていた件に関し、6日、政府との間で合意に達した。同合意では、国家開発計画の条項に社会活動家の人権保護、土地の利用、事前協議、和平推進といった内容を含むことが定められた。

##### 2 国会における和平特別司法制度基本法案の修正審議

8日、和平特別司法制度（J E P）基本法案の修正審議が国会下院で行われた。同審議は、ドウケ大統領が反対を唱えた6項目に関し、その修正を反対する案が本会議で審議された。同日、同審議に係る投票が行われ、賛成110票、反対44票で可決され、法案修

正は否決された。また、上院における審議は30日に開始。野党提出の修正反対案の投票が行われたが、賛成47票、反対34票で賛成が絶対多数に達していないとの判断から否決された。

### 3 E L Nによる一方的一時停戦

11日、E L Nは、14～21日のイースター休暇の期間に一方的一時停戦を行う旨を宣言した。同宣言は、学术界などから和平の意志を示すように求められたことから、発出されたものである。しかし、E L Nは停戦中にノルテ・デ・サンタンデール県の石油パイプラインに対して2度の破壊攻撃を行った。また、ベネズエラ野党の情報によると、E L Nは、ベネズエラの23の州の内、12の州において活動している。さらに、天然資源の収奪や麻薬取引を行う違法組織だけでなく、思想教化やチャビスモに反する者に対する統制を行う集団が約1万5千人存在している。

### 4 N G O団体「Somos Defensores」による報告書

N G O団体「Somos Defensores」が発表した報告書によると、本年1月から3月の期間に人権活動家に対する殺害及び脅迫は245件発生した。

### 5 元F A R C兵に対する殺害

29日、検察庁は和平合意が署名された2016年11月24日以降に発生した元F A R C兵の殺害に関する報告書を発表した。同報告書によると、殺害された元F A R C兵は106人、その内の多くはカウカ県、ナリーニョ県及びアンティオキア県といった犯罪組織が遍在している地域で発生している。他方、F A R C党は、殺害者数は126人、行方不明者は9人であると主張している。

## 【外交】

### 1 ロシア連邦院（上院）の声明に対するコロンビア外務省声明

2日、コロンビア外務省は「人道支援と呼ばれるものを支持した国家はベネズエラにおける市民戦争を組織しようとしている」とのロシア連邦院（上院）による非難声明を受けた声明を発出した。同声明においてコロンビア政府は、ロシア連邦院の非難は事実在即しておらず、域内の様々な国と共有するコロンビアの立場及び正当性のないマドゥーロ体制に関する明確な行動を歪曲するものであると主張した。

### 2 トウルヒージョ外相の米国訪問（於：ワシントン）

4～5日、トウルヒージョ外相は米国を訪問し、トランプ米大統領の顧問であるクレイバー・キャロン氏と会合を行った。同会合では薬物問題への対策、組織犯罪及び地域的事項といった二国間の安全保障に関する議論が行われた。5日、「ト」外相は、エイブラムス・

ベネズエラ担当特使と会合を行い、ベネズエラの最新情勢、グアイド・ベネズエラ暫定大統領への支援、独裁政治終結への模索及び民主的な選挙の実施などが議題に挙げられた。

### 3 ICCにおける社会活動家殺害に関する議論

5日、国際刑事裁判所（ICC）において、コロンビアで発生している社会活動家殺害に関する議論が行われた事が明らかとなった。本議論に対し、マルティネス・コロンビア検事総長は、人権擁護者に対する事案の57%は解明済みであるとの書簡を送付している。また、ペトロ前大統領候補は、ハーグに所在するICCに赴き、社会活動家に対する殺害には組織性、迫害及び高い無処罰率が存在しているとして、ICCによるコロンビア国家に対する調査を依頼する書簡を手交した。

### 4 OASがグアイド暫定政権の合法性を承認

9日、米州機構（OAS）常任理事会の特別会合において、OASはグアイド・ベネズエラ暫定政権の合法性を承認する旨決定した。

### 5 トウルヒージョ外相の米国訪問（於：ニューヨーク）

10日、トウルヒージョ外相は米国を訪問し、国連安保理のベネズエラ情勢に関する会合に出席した。同会合において、「ト」外相はベネズエラにおける人道危機を説明した上で、同会合をベネズエラの民主主義の回復及びベネズエラ国民の自由の享受に向けた前進であると評価した。

### 6 OASとコロンビア政府による第49回OAS総会開催に関する合意

11日、OASとコロンビア政府は第49回OAS総会の開催をメデジンで行う旨合意した。同総会は、「米州の多国間枠組強化に向けた革新」とのスローガンの下、6月26～28日に開催される。

### 7 ドウケ大統領とトウルヒージョ外相がベネズエラ国境沿いに位置する県知事らとの会合を実施

14日、ノルテ・デ・サントアンデール県ククタ市において、ドウケ大統領とトウルヒージョ外相は、ノルテ・デ・サントアンデール県、ラ・グアヒラ県、セサル県、アラウカ県、ビチャーダ県及びグアイニア県といった国境県の知事及び各県の市長らと会合を行った。同会合の主な目的は、ベネズエラ避難民問題による影響の抑制及び国境の閉鎖といった内容が盛り込まれたインパクト・プランの評価であった。

## 8 ポンペオ米 국무長官のコロンビア訪問

14日、ポンペオ米 국무長官は、コロンビアとベネズエラ国境にあるノルテ・デ・サンタンドール県ククタ市を訪問し、国境橋及び避難民一時滞在施設の視察及びドゥケ大統領と会談を行った。同訪問にはエイブラムス米 務省特別代表が同行したほか、コロンビア側からはドゥケ大統領、ラミレス副大統領、トゥルヒージョ外相、サントス駐米コロンビア大使、クルーガー・コロンビア移民庁長官ほかが同行した。また、ウィテーカー駐コロンビア米 国大使、ボルヘス・リマ・グループ・ベネズエラ代表も同行した。

## 9 ステイン国連ベネズエラ避難民対策共同特別代表の当地訪問

25日、ステイン（Eduardo Stein）国連ベネズエラ避難民対策共同特別代表はコロンビアを訪問し、トゥルヒージョ外相と会合を行った。同会合において、「ス」代表は2019年のベネズエラ避難民のための地域計画（RMRP）の進捗及び課題に関する説明を行った。

## 10 リマ・グループ緊急会合の開催

30日、ベネズエラにおける「自由作戦（Operacion Libertad）」の開始を受け、テレビ会議形式によるリマ・グループの緊急会合が開催され、会合後に声明が発出された。同声明においてリマ・グループは、ベネズエラにおける民主主義回復のためにグアイド暫定大統領のリーダーシップにより行われた今次憲法上・人民上のプロセスに対し全面的な支持を表明するとともに、クーデターであるとの評価を拒絶すると主張した。

## 11 マース・ドイツ外相の当地訪問

30日、マース・ドイツ外相はコロンビアを訪問し、トゥルヒージョ外相と会談を行った。同会談では、コロンビアにおける安定化と平和的共存プロセス、ベネズエラ危機、教育、科学及び技術・イノベーションに関する二国間技術委員会といった事項が議論された。